

研究会報告書

タイトル： 少数粒子系物理の現状と今後の展望
日時： 2010年8月20、21日
場所： 福岡国際会議場
ホームページ： <http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/indico/conferenceDisplay.py?confId=181>

内容：

“少数粒子系物理”という言葉キーワードに、原子核、ハドロン、原子・分子系などにおける少数粒子系の諸問題を、実験・理論の両側面から議論することを目的として開催した。2012年に行われる第20回IUPAP少数粒子系物理学国際会議(FB20)への準備作業とすることを目的の1つとし、同時期・同開催場所にて研究会を行った。夏の福岡にての開催であったが、遠距離から含め多くの参加があり、若手を中心とする70名に上る参加者を得ることができた。日本の少数粒子系物理研究の活力の大きさと、FB20会議成功への意気込みの大きさを再認識できることとなった。

会議では、少数核子系、ハドロン物理、不安定核、ハイパー核、格子QCD、クラスター、核反応、原子分子物理などの各分野の報告と活発な議論があった。近年の少数核子系精密計算の進展や、格子QCD計算の現状、 3α 反応レートに関する新しい理解、RIBFおよびJ-PARCでの実験状況・計画をはじめ、実験・理論の研究に関する46の講演を行った。会議ではプレナリーを中心に一部パラレルでのセッションを設けた。また物理のセッションに加え、FB20会議の計画概要と準備に関する講演、および2011年に韓国にて行われるアジアパシフィック少数粒子系物理国際会議(APFB2011)に関して組織委員のKim Hyun-Chul氏による講演を行った。

少数粒子系物理研究の現状を理解するとともに、若手の意欲を盛り立てて行く上で大変有意義な研究会であった。また、FB20会議の運営方針や改善点に関するアンケートを行い、会場への交通手段、バスのアクセスや誘導、昼食の方針、宿泊施設の状況から、会議場に関する問題点や改善点など多くの意見が寄せられたことも会議準備作業として大変有用であったことを申し添えておく。

世話人：

民井淳 (RCNP)、肥山詠美子 (理研)、石川壮一 (法政大)、鎌田裕之 (九州工大)、木野康志 (東北大)、前田幸重 (宮崎大)、明孝之 (大阪工大)、野海博之 (RCNP)、相良建至 (九大)、関口仁子 (理研)、若狭智嗣 (九大)、Naidor Pascal (東大)